

教

Faculty of Education

育 学 部

学びの連携から
開かれる
教師へのとびら。



学校教育課程

幼小連携教育コース → P.030

小中連携教育コース → P.034



教育とは、次世代を担う子どもたちの育成。 つまり未来を創造すること。



佐 賀大学教育学部では、幼児・児童・生徒の心身の発達を長期的な視点から見据えながら、現代社会の変化にともなうさまざまな教育課題に応えることができる教員の養成を目指しています。

佐賀大学教育学部には、「幼小連携教育コース」と「小中連携教育コース」の2コースがあります。

「幼小連携教育コース」では、子どもの生活・発達・学習について、心理・教育・保育、特別支援教育の視点から専門的知識や技能を学びます。また、これらの知識や技能をもとに子どものニーズや

課題を把握できる教員を養成します。「幼小発達教育専攻」と「特別支援教育専攻」の2専攻があります。

「小中連携教育コース」では、小学校・中学校の9年間を一体的に捉え、義務教育期間全体を見据えて教育実践を行える能力をもった教員を養成します。児童期から思春期にかけての心身の発達過程や各教科の内容をふまえ、一人ひとりの学習意欲を高めながら着実な理解や達成の積み重ねへと導き、学力向上を実現することのできる指導・支援の在り方を学修します。「初等教育主免専攻」と「中等教育主免専攻」の2専攻があります。

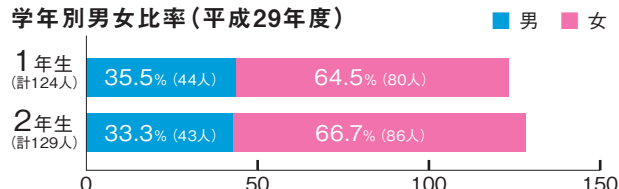
「学びの連携」で一貫的な教育を目指す

佐賀大学教育学部の特徴の一つは、「学びの連携」を重視していることです。「幼小連携教育コース」「小中連携教育コース」の双方とも、複数の学校種が連携する教育や、小学校高学年の教科担任制に対応して、幼児期から児童期へ、児童期から青年期へと成長していく子どもたちの発達を一貫的で連続性のある学びとして捉えることのできる教員の養成を目指しています。

また、これからの時代に求められる高度な指導力の育成を重視していることも大きな特徴です。確かな学力の形成、小学校段階で

の英語教育の充実、科学的思考力の育成、ICTを活用した教育の充実などに対応できる教員の養成を目指しています。

学年別男女比率（平成29年度）



学校教育課程幼小連携教育コース



子どもの生活・発達・学習について、 心理、教育・保育、特別支援教育の観点から専門知識・技能を学ぶ

幼小連携教育コースには、「幼小発達教育専攻」「特別支援教育専攻」の2専攻があります。

子どもの生活・発達・学習について、心理、教育・保育、特別支援教育の観点から専門知識・技能を学ぶことにより、子どものニーズや課題を把握できる教員を養成します。

教育目標

- 1 教員としての責任と使命を持ち、学校教育をめぐる今日的な課題の解決に取り組むことができる力量を育成します。
- 2 子どもの発達についての確かな理解を持ち、子ども一人ひとりの状態に応じた支援を展開できる力量を育成します。
- 3 保護者や家庭など子どもの生活と関わる他機関と連携し、子どもの育ちを支える役割を担うことができる力量を育成します。

幼小連携教育コースで学ぶために 必要な能力や適性等

- 小学校の全教科に関する学習と、心理学・教育学・幼児教育の学習や特別支援教育の学習に意欲を持って取り組める人
- 幅広い基礎的学力や技能を備え、家庭・学校・地域が抱える教育的課題や子どもたちの心身の発達、学びを支える教育について関心を持ち、幼稚園、認定こども園、小学校、または特別支援学校の教員を目指す人

高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。将来、教師として活躍するためには、教職についての意欲と関心を培い、幼児教育や初等教育、特別支援教育をめぐる諸問題に対して強い関心を持つことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、将来教師になるにあたって糧となるような何らかの実践を経験できる機会があれば積極的に挑戦することを期待します。

学生が
語る!

幼小連携教育コースの魅力

学びのポイント

- ◎幼稚園、小学校、特別支援学校などの教員をめざす
- ◎1年次から学校現場に触れるフィールド演習科目あり
- ◎幼小の接続に関する基礎知識を修得できる
- ◎特別支援教育の基本的理念を修得できる
- ◎高等学校教員免許も取得可能

自分の夢を実現しよう

私は幼小連携教育コースで、小学校教諭や幼稚園教諭になるための教育について学んでいます。将来幼稚園教諭になりたいと思っている私にとって、このコースは幼稚園教諭についてだけでなく、小学校教諭についても学べる仕組みになっているので、現代教育の問題である小1プロブレム*を考えた知識を学ぶことができ、とても充実したコースです。幼稚園教諭や小学校教諭に興味がある皆さん、幼小連携教育コースと一緒に教師を目指してみませんか?

*小1 プロブレム 子どもが幼児教育施設から小学校1年生へと入学した際、生活・学習環境等へ適応することが困難な場合を問題として捉えた言葉です。

教育学部 学校教育課程
幼小連携教育コース2年

太田 好鼓

佐賀県立三養基高等学校出身

私の合格体験記

私が受験した年は教育学部がスタートした最初の年で入試傾向が掴めず、試験当日まで不安だらけでした。前期では結果が伴わず悔しい思いをしました。しかし私が諦めそうになった時、母の「今頑張らなかったら絶対後悔するよ」という言葉でもう1度頑張ることができ、後期で合格することができました。自分の夢を叶えるために努力を惜しまず受験勉強頑張ってください!



時間割のイメージ

	月	火	水	木	金
1	小学校 英語活動		基本教養 科目	基本教養 科目	
2	体育実技	大学入門 科目		現代の 教育と 社会	小学音楽
3	英語A	情報基礎 概論		情報基礎 演習Ⅰ	特別支援 教育総論
4					
5			幼児教育 課程論	保育内容 (人間関係)	幼児・児童 発達論

先生からのメッセージ



大元 誠 教授

子どものイメージをどう描いていますか?また、あなた自身はまだ子ども?あるいはそろそろおとな?幼小連携教育コースでは、こんな“なぜ”を抱きつつ、学んでほしいのです。ひとが発達するとはどういうことなのか?その発達を支援するとはどういうことなのか?入学して、共に学びませんか?

このコースで学んだひとには、小学校のしくみをよく知っている幼稚園の先生、幼稚園のしくみをよく知っている小学校の先生になってもらいたいです。つまり、幼児教育から小学校教育への橋渡しができる力を身につけてほしいのです。そんな力を学びたい、そう思っている方は是非入学して下さい。待っています。

取得可能な免許・資格

所定の単位を取得することにより、
卒業時に資格が得られるもの

- 幼稚園教諭一種免許状、二種免許状
- 小学校教諭一種免許状、二種免許状
- 中学校教諭一種免許状、二種免許状
(国語、社会、数学、理科、英語、音楽、保健体育、技術、家庭)
- 高等学校教諭一種免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、音楽、保健体育、書道、家庭)
- 特別支援学校教諭一種免許状、二種免許状

想定される進路

主な就職先

- 幼稚園教諭
- 小学校教諭
- 中学校教諭
- 高等学校教諭
- 特別支援学校教諭

主な進学先

- 佐賀大学大学院学校教育学研究科(教職大学院)

▶▶▶ 4年間で学ぶ授業

卒業単位 134

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
教養教育科目	大学入門科目	共通基礎科目「英語」			
		共通基礎科目「情報リテラシー」			
		基本教養科目(自然科学と技術、文化、現代社会)			
		インターフェース科目			
専門教育科目	幼小発達教育専攻	【専攻の科目】 ●児童・生徒発達論 ●心理学概論 ●保育観察実習Ⅰ ●特別支援教育総論 など 【教職・教科の科目】 ●教職概論 ●小学国語 ●小学体育Ⅰ・Ⅱ ●初等数学 ●現代の教育と社会 ●幼児・児童発達論 など	【専攻の科目】 ●幼小連携教育論 ●子どもの福祉と家族支援 ●保育表現演習Ⅰ・Ⅱ ●教育統計Ⅰ ●心理学実験Ⅰ ●臨床心理学概論 ●集団心理学 ●家族心理学 ●社会教育概論Ⅰ・Ⅱ など 【教職・教科の科目】 ●生徒・進路指導の理論と方法(初等) ●教育原論 ●初等国語科教育法 ●初等特別活動の理論と方法 ●幼児教育課程論 ●小学社会 ●小学家庭 ●教育心理学 ●初等理科講義及び実験 など	【専攻の科目】 ●幼小連携教育研究法 ●幼小連携教育演習 ●保育表現演習Ⅲ・Ⅳ ●社会的養護の理解 ●子どもの保健と健康 ●子どもの食と栄養 ●心理学実験Ⅱ ●学習心理学 ●社会心理学 ●道徳教育と学級経営 ●社会教育計画Ⅱ ●高齢化と生涯学習 など 【教職・教科の科目】 ●生活科教育法 ●保育内容(健康) ●生活科概説 ●教育相談の理論と方法(初等) ●保育内容(環境) ●小学図画 ●小学工作 など	【専攻の科目】 ●保育観察実習Ⅱ・Ⅲ ●社会教育演習 ●卒業研究 など 【教職・教科の科目】 ●教職実践演習
	特別支援教育専攻	【専攻の科目】 ●特別支援教育総論 ●障害児心理学 ●知的障害者の生理・病理 ●病弱者・情緒障害者の心理・生理・病理 ●知的障害児心理学 など 【教職・教科の科目】 ●教職概論 ●幼児・児童発達論 ●現代の教育と社会 ●小学国語 ●小学体育Ⅰ・Ⅱ ●小学算数 など	【専攻の科目】 ●障害児学習指導法Ⅱ・Ⅲ ●教育統計Ⅱ ●子どもの福祉と家族支援 ●心理学実験Ⅱ ●社会教育概論Ⅱ ●幼小連携教育論 など 【教職・教科の科目】 ●教育原論 ●生徒・進路指導の理論と方法(初等) ●初等国語科教育法 ●初等特別活動の理論と方法 ●幼児教育課程論 ●小学社会 ●小学家庭 ●教育心理学 ●初等理科講義及び実験 など	【専攻の科目】 ●障害児学習指導法Ⅰ ●障害児の心理臨床と指導法 ●身体不自由者の心理・生理・病理 ●発達障害児心理療養 ●重聴障害教育論 ●幼小連携教育研究法 ●心理学実験Ⅱ ●幼小連携教育演習 ●社会的養護の理解 ●子どもの保健と健康 ●子どもの食と栄養 ●保育表現演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ など 【教職・教科の科目】 ●教育相談の理論と方法 ●生活科教育法 ●保育内容(健康) ●生活科概説 ●保育内容(環境) ●小学図画 ●小学工作 など	【専攻の科目】 ●卒業研究 など 【教職・教科の科目】 ●教職実践演習
		●教育実践フィールド演習Ⅰ	●教育実践フィールド演習Ⅱ	●教育実践フィールド演習Ⅲ・教育実習(小学校)	●教育実習(幼稚園・特別支援学校・中学校)

4年次まで
しっかり
学ぼう!



▶▶▶ カリキュラムの特色

幼小連携教育コースには、「幼小発達教育専攻」「特別支援教育専攻」の2専攻があります。

幼小の接続に関する基礎知識と特別支援教育の基本的理念を修得した教員を養成するため、幼小連携教育コースの共通必修科目として、「幼小連携教育論」「幼児・児童発達論」「特別支援教育総論」が設定されています。

「幼小発達教育専攻」では、子どもの発達を心理学、保育・幼児教育学、教育学の観点から包括的に捉えることのできる力を育みます。保育士試験に対応する科目も開講し、幼児教育のより一層の充実を図っています。

「特別支援教育専攻」では、特別な教育的ニーズを持つ児童生徒に対し、一人ひとりにどんな配慮が必要なのか、個別に判断し、適切な教育的支援を行える能力を育てます。本専攻の卒業必修科目をすべて修得すると、小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状の2種類の教員免許を取得できます。

▶▶▶ 主な授業紹介

幼小連携教育論

この授業では、保育・幼児教育、小学校教育それぞれの特徴を理解しながら、保育所・幼稚園・認定こども園から小学校へのなめらかな接続について学んでいきます。そのために、子どもの発達に関する理解とともに、小学生と幼児の交流活動の進め方や教員同士の連携の持ち方、教育行政での取り組みといった教師の果たす役割について理解を深めることを目指します。

道徳教育と学級経営

学級は、子どもたちにとって小さな社会です。多様な他者とお互いの違いを認め合い、生き方の基本を学びます。どんな集団が望ましい集団なのか、子ども同士のつながりをどう作っていくのか、教員の社会観・子ども観が問われます。道徳意識を高める学級づくりの理念と方法論について学びます。



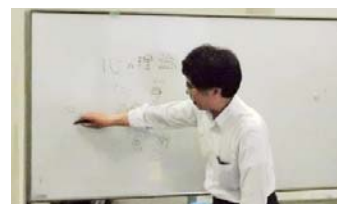
保育表現演習Ⅲ(造形表現)

保育や幼児教育の実践の中で、表現活動を通して感覚や感性の芽生えを引き出し育てていくことは、とても大切なことです。様々な素材を使った造形演習と相互批評を通して、身の回り人やものへ働きかけることが、どのように幼児の学びや育ちにつながり展開していくのかを探求していきます。



特別支援教育総論

特別支援教育の基礎を学ぶ授業です。日本の障害児の教育制度(特別支援教育)や歴史、各種障害(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、発達障害等)の理解と支援のあり方、障害児を取り巻く家庭や地域社会における課題等を学びます。分かり易く満足のできる授業作りを心がけています。



幼児・児童発達論

生涯発達心理学的観点から、特に幼児期および児童期を中心とし、この時期特有の発達の道筋や特徴について講義します。幼児期から児童期にかけて、知ること、ことば、自我および人間関係の発達について理解し、幼児期から児童期への移行期の問題いいわゆる小1プロブレムについてどう対応するべきなのかを考えます。

▶▶▶ 研究室紹介



教育制度ゼミ

佐藤 晋平 講師

教育制度ゼミでは、教育を成立させる制度の仕組みについて研究しています。教育のことはもちろん、政治や法、さらには社会の成り立ちなどについても考えながら、教育の制度のあり方はどうなっているのか、もしくはどのような教育制度が理想的なものであるのかを模索しています。ゼミ生は、学校教員のキャリア形成や政府の教育政策、現代社会と子どもの関係など幅広いテーマを研究しており、色々なテーマについて、教育学、政治学、社会学、法哲学などの多様なアプローチから議論を行っています。

様々な個性が魅力的!



研究室・ゼミ一覧

幼小発達分野

大元 誠 教授

幼小発達を中心として、興味関心のある話題について、4年間の学びの集大成として、発達心理学、学習心理学、教育心理学的観点から研究し、卒業論文を作成します。取り扱おうとするテーマについて、いままでにどんな研究がなされてきたのかを調べ、新たな観点から質問紙等を作成し、具体的なデータに基づきながら研究していきます。



特別支援教育分野

芳野 正昭 教授

一例をあげます。[特別支援学校中学部の重度障害生徒への授業とコミュニケーション]これは、重度障害生徒の教育を卒業研究のテーマとして取り上げたものです。読み聞かせや医療的ケアを受ける重度障害生徒の表出に真摯に向き合い、コミュニケーションの可能性を追求しました。卒業研究のテーマはこれ以外にも幅広い分野から選べます。



幼小教育分野

松下 一世 教授

学生の問題意識を大切に、きめ細かなゼミ指導をします。小・中・高・大、いじめ、不登校、子どもの貧困など、様々な問題について教育学的アプローチで考えていきます。また、学級づくり、インクルーシブ教育、子どもの権利、教育制度、子育て支援、地域連携など幅広く学べます。



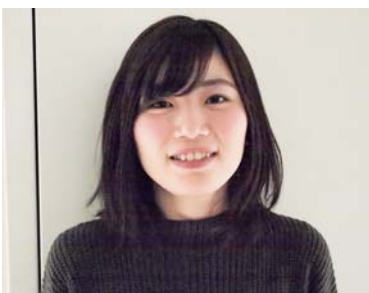
幼児教育(造形)分野

栗山 裕至 教授

造形実践を主内容としながら、幼児教育の理論や方法、課題や可能性について具体的に研究を行なっていきます。小学校との接続として、図画工作科との相互関連も重視しています。幼児・児童について深く理解し、柔軟な発想と創造的な教育実践ができる教員の養成を目指しています。



▶▶▶ 卒業研究紹介



園田 春菜 佐賀県立佐賀北高等学校出身

特別支援学級における外国語活動の現状と課題

障害のある児童が外国語活動を楽しく学べ、かつ効果的な指導・支援について研究を行いました。佐賀市内の小学校に設置されている知的障害、自閉症・情緒障害特別支援学級を対象にし、授業見学及び担当の先生方へのインタビューや調査を行い、その際には、多くの現場の先生方のご協力に支えられました。それに加え、佐大の指導教官の先生からのお力添えもあり、充実した研究生生活が過ごせました。本当に感謝しております。

卒業生の主な卒業論文テーマ

- 幼少期における土素材を用いた造形の研究
- 小学校図画工作科における自然物を用いた造形学習の研究
- 幼児教育における環境構成についての考察
- 子どもの友人関係成立の要因に関する考察—幼児のトラブルにおける保育者のかかわりから—
- 非行少年に対する支援のまなざし
- 学習困難児に対する心理教育的支援研究
- 映像作品に描かれた自閉症の特性に関する研究
- 小学校高学年児童における学級風土認知と学級適応感に関する研究—現実と理想とのずれに着目して—
- 幼児期の子どもの持つ保護者が育児の不安に直面した時の援助要請行動—不安の程度および保育者に対する信頼感による関連—
- テスト不安が高い生徒、低い生徒に学習へのやる気を起こさせる教師の言葉かけについて

大学生活の集大成!



▶▶▶ 教員紹介

大元 誠 教授
発達心理学

栗山 裕至 教授
造形教育

松下 一世 教授
人権教育学

芳野 正昭 教授
障害児教育

中村 尚志 准教授
特別活動・道徳教育

若本 純子 准教授
教育心理学

和田 学 准教授
造形教育

佐藤 晋平 講師
教育法学

石井 宏祐 准教授
臨床心理学

学校教育課程小中連携教育コース



小・中学校 9 年間の義務教育期間全体を体系的に把握し、 児童生徒の心身の発達過程に基づきながら、 各教科の内容と特徴を学ぶ

小中連携教育コースには、「初等教育主免専攻」「中等教育主免専攻」の2専攻があります。

小・中学校 9 年間の義務教育期間全体を体系的に把握し、児童生徒の心身の発達過程に基づきながら各教科の内容と特徴についての理解を深めます。
さらに、初等教育と中等教育を一体として捉えた特色ある教育を各専攻で行います。

教育目標

- 1 教員としての責任を自覚し、学校教育をめぐる今日的な課題の解決に真摯な姿勢で取り組むことができる力量を育成します。
- 2 児童生徒の発達についての確かな理解を持ち、保護者や地域と手を携えながら、一人ひとりの心身の状態に応じた教育を展開できる力量を育成します。
- 3 児童生徒の知的好奇心に応えるとともに、学修内容の確かな理解へと導くことができる力量を育成します。

小中連携教育コースで学ぶために 必要な能力や適性等

- 小学校の全教科に関する学習と、中学校のいずれかの教科の学習に意欲を持って取り組める人
- 幅広い基礎的学力や技能を備え、小学校から中学校への教育の接続の問題や各教科の教育について関心を持ち、小学校、中学校、小中一貫校の教員を目指す人

文系、理系に偏らず、高等学校で履修する全ての教科・科目について、基礎的な知識を幅広く学習し、自分の考えを分かり易く文章や口頭で表現できることが必要です。なお、技能が重要視される教科については、基礎的な技量をあわせて修得しておくことが求められます。将来、小学校や中学校などの教師として活躍するためには、初等教育や中等教育をめぐる諸問題に対して幅広い視野と強い関心を持ち、読書などを通して自分自身で考えておくことが必要です。大学入学前にボランティア活動や学校内外での諸活動など、教育に関わる何らかの実践を経験できる機会があれば、積極的に挑戦することを期待します。

学生が
語る!

小中連携教育コースの魅力

学びのポイント

- ◎ 小学校、中学校、高等学校などの教員をめざす
- ◎ 1年次から学校現場に触れるフィールド演習科目あり
- ◎ 義務教育期間全体を体系的に把握する力が身に付く
- ◎ 児童生徒の心身の発達過程の理解も重視
- ◎ 教科についての十分な知識と技能を修得できる

自分のしたいことを

とことんできる

私は将来小学校教員になることを目指していますが、大学では小学校だけでなく中学校、高校、特別支援の免許の取得のために幅広く学んでいます。教育学部のいいところは取得可能な免許の幅が広いことです。また、1年の時から実習に行くので3年での教育実習の前準備も出来ます。私の主免は理科ですが英語にも興味があったのでISAC*に入り、1年の春休みには短期留学にも行きました。より多くの経験を積み自分の興味のある勉強ができることは今までにないくらい楽しいことです。ぜひ皆さんも自分のしたいことをとことんしてみませんか？

教育学部 学校教育課程
小中連携教育コース 2年

豊田 野乃花

佐賀県立鳥栖高等学校出身

私の合格体験記

受験期で一番苦しかった事は、自分の出来ない所ばかりが目についたことです。その度に焦りが募り、どの教科も中途半端になっていました。そこであえて一つの教科に絞り取り組むことにしました。すると目の前の事だけに集中しようとして、他の事に振り回されなくなりました。やはり焦ると自分のすべきことが見えなくなりがちです。焦った時こそ一呼吸を置いて目標達成に向かって下さい。

*ISAC(International Study Abroad Curriculum 留学支援英語教育カリキュラム) 佐賀大学の一定の英語力と留学への意欲がある学生を対象としたカリキュラムです。英語ネイティブスピーカー教員による授業の受講を通し、原則として3年間(医学部は1年間)で留学および国際交流に必要な英語能力と異文化交流に必要な知識を身につけるものです。



時間割のイメージ

	月	火	水	木	金
1	小学校英語活動		日本国憲法	物理の世界 I	生物學概論 A
2	体育実技 I	大学入門科目		現代の教育と社会	
3	英語 A	情報基礎概論		情報基礎演習 I	特別支援教育総論
4	小学体育 I				
5	小学音楽			小学国語	物理学概論 A

先生からのメッセージ



世波 敏嗣 教授

小中連携教育コースでは、小学校と中学校・高等学校の各教科等の連携を柱として、幼・小・中・高の教育の一貫性について学び、小学校や中学校、高等学校の教員免許状等の取得を目指します。本コースの2専攻の内、初等教育主免専攻では小学校の各教科等を中心に、中等教育主免専攻では中学校の各教科を中心に高等学校の各教科も加えて学ぶことができます。そして、各教科等における教育目的、教科内容、教育方法、教授論、学習論、教材研究・開発、授業設計や授業研究・開発、教育課程、教育史・教材史、教育哲学、学習心理、ICT教育、教育関係法規など、多様な事項について知識や技能を修得し、教師としての資質と態度を形成します。特徴的な授業としては、各教科等の「小中連携教育学」などがあります。

取得可能な免許・資格

所定の単位を取得することにより、
卒業時に資格が得られるもの

- 幼稚園教諭一種免許状、二種免許状
- 小学校教諭一種免許状、二種免許状
- 中学校教諭一種免許状、二種免許状
(国語、社会、数学、理科、英語、音楽、保健体育、技術、家庭)
- 高等学校教諭一種免許状
(国語、地理歴史、公民、数学、理科、英語、音楽、保健体育、書道、家庭)
- 特別支援学校教諭一種免許状、二種免許状

想定される進路

主な就職先

- 幼稚園教諭
- 小学校教諭
- 中学校教諭
- 高等学校教諭
- 特別支援学校教諭

主な進学先

- 佐賀大学大学院学校教育学研究科
(教職大学院)

		1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
教養教育科目	大学入門科目	共通基礎科目「英語」			
		共通基礎科目「情報リテラシー」			
		基本教養科目（自然科学と技術、文化、現代社会）			
		インターフェース科目			
専門教育科目	初等教育主専攻	【専攻の科目】 ●小学校英語活動 ●小学国語 ●小学音楽 ●教職概論 ●現代の教育と社会 ●小学体育Ⅰ など 【中等教育副免許の科目】 例:国語科 ●中国文学概説 ●書写Ⅰ ●国語要説 ●近代文学論 など	【専攻の科目】 ●小学校英語内容論 ●小学社会 ●小学家庭 ●初等道德教育の理論と方法 ●初等理科講義及び実験 ●初等特別活動の理論と方法 ●初等国語科教育法 ●初等社会科教育法 ●算数科教育法 ●教育心理学 ●教育原論 など 【中等教育副免許の科目】 例:国語科 ●生徒・進路指導の理論と方法(初等) ●授業実践論 ●中等国語科教育法Ⅰ ●特別活動の理論と方法 ●教育方法学概説 ●道德教育の理論と方法 ●教育相談の理論と方法(中等) など	【専攻の科目】 ●小中連携教育内容研究 ●小中連携教育学 ●生活科概説 ●小学図画 ●小学工作 ●初等理科教育法 ●生活科教育法 ●教育相談の理論と方法(初等) など 【中等教育副免許の科目】 例:国語科 ●中等国語科教育法Ⅱ・Ⅲ ●古典文学論 など	【専攻の科目】 ●教職実践演習 ●卒業研究 など
	中等教育主専攻	【専攻の科目】 例:国語科 ●中国文学概説 ●中国文学史論 ●書写Ⅰ・Ⅱ ●国語要説 ●近代文学論 など 【初等教育副免許の科目】 ●小学校英語活動 ●小学国語 ●教職概論 ●現代の教育と社会 ●小学体育Ⅰ など	【専攻の科目】 例:国語科 ●国語表現論 ●古典文学論 ●国文学史 ●道德教育の理論と方法 ●教育相談の理論と方法(中等) ●生徒・進路指導の理論と方法(中等) ●特別活動の理論と方法 ●教育方法学概説 ●中等国語科教育法Ⅰ ●授業実践論 など 【初等教育副免許の科目】 ●小学校英語内容論 ●小学社会 ●小学家庭 ●初等理科講義及び実験 ●初等道德教育の理論と方法 ●初等特別活動の理論と方法 ●初等国語科教育法 ●算数科教育法 ●教育原論 ●教育心理学 など	【専攻の科目】 例:国語科 ●中等国語科教育法Ⅱ・Ⅲ ●古典文学演習Ⅲ ●中国古典学演習AⅢ・BⅢ ●国語学演習Ⅲ など 【初等教育副免許の科目】 ●小中連携教育学 ●生活科概説 ●小中連携教育内容研究 ●小学図画 ●初等理科教育法 ●教育相談の理論と方法(初等) など	【専攻の科目】 ●教職実践演習 ●卒業研究 など

▶▶▶ カリキュラムの特色

小中連携教育コースには、「初等教育主専攻」「中等教育主専攻」の2専攻があります。

どちらの専攻においても、各教科の教科内容や教育課程を小中接続の観点から理解し、授業研究に結びつけることができるようにするために、「小中連携科目」(「小中連携教育内容研究」と「小中連携教育学」)が設定されています。

「初等教育主専攻」では、児童の発達段階をふまえ、一人ひとりを伸ばやかな心身の成長へ導くことのできる力を育みます。本専攻は、小学校免許を主免としていますが、小学校の担任教員に必要な全科目についての内容を押さえて、どの科目も教えることのできる教員の養成をめざします。

「中等教育主専攻」では、小学校教育との接続という課題に対応し、生徒それぞれの着実な学習の積み重ねや、学力の向上を実現できる教育実践の力を育成します。本専攻は、中学校の1つの教科について十分な知識と技能を身につけることをめざしますが、同じ教科の高校教員の免許取得も視野に入れています。

4年次まで
しっかり
学ぼう!



▶▶▶ 主な授業紹介



小中連携教育内容研究(各教科) 小中連携教育学(各教科)

本コースの特色である「小中連携科目」です。たとえば、「小中連携教育内容研究(算数・数学科)」では、小学校と中学校で共通に扱われている例反比例などの内容を小学校から中学校へどのように接続させていくかを学び、教材開発の研究を行います。また、「小中連携教育学(算数・数学科)」では、小学校算数科と中学校数学科の目標や内容の取り扱い、評価方法のちがいなどをとおさえたうえで、実際の授業事例などを研究します。このように、小中接続の視点から各教科の教育のあり方を学びます。



食物学Ⅰ

「食物学Ⅰ」は、料理のおいしさを科学的に考える授業です。例えば、調味料を「さしすせそ」の順番で加えると良いとされる理由や、旬の食材を食べることの意義について、食物学の研究成果を基に考えます。また、講義だけでなく、学んだ知識を活用し、技術を向上させるために調理実習を行います。このような活動を通じて、食物学の専門的な知識を身につけると共に、生活を科学する力を育てることをめざしています。



英語科教育法Ⅰ

英語科教育法Ⅰでは、初等・中等・高等教育における英語指導に関する専門知識の修得とともに、小中高の接続を見据えた授業実践力の養成を行います。講義では、英語科教育の目標・内容、及び言語習得の諸理論や授業実践上の諸問題についての理解・考察を深めながら、単元の授業構成や実践などについて演習形式で検討していくことにより指導技術を身につけます。



初等理科講義及び実験

最新の科学を念頭に置いて初等理科領域を指導できるようになることを目的としています。物理学・化学・生物学・地学の4領域のオムニバス形式で講義を受け、それらに関する実験を受講生自らが、初等理科に関する能力を高めます。

研究室紹介



英語科研究室(英語教育学)

田中 彰一 教授・林 裕子 准教授

英語教育学ゼミは、小学校・中学校・高校の英語教育の接続を見据え、高い指導力と授業に生かせる英語運用能力(特に発話能力)をもつ教員を育成するために行われる少人数での演習です。初等教育主専攻と中等教育主専攻の2つに分かれる小中連携教育コース(英語科)では、教員免許取得に必要な専門科目を学びながら、3・4年次での教育実習に参加し、最後に自ら設定した課題に基づく卒業論文研究に取り組みます。さらに、実践的な英語力向上のための海外語学研修や交換留学など、留学支援があります。

様々な個性が
魅力的!



研究室・ゼミ一覧

国語科

国語科教育ゼミでは、適切な言語運用を可能とする能力について考えていきます。言語活動の充実が指摘され、国語教育の転換期と言われる現在、「何を、どのように」教えるのかを明確にする必要があるからです。卒業生の多くは、小学校教諭になりますが、中学校国語免許、高等学校国語免許も取得できます。

社会科

今日、私たちの社会は、多様な社会的問題に直面しています。社会科分野では、どうすれば社会問題を克服し、よりよい民主主義社会を形成しようとする子どもたちを育成することができるのか、そうした子どもたちを育成するにはどのような授業を実践すればよいかを考えます。なお、教員免許状は、小学校教員免許状に加えて、中学校社会科、高等学校地理歴史科、高等学校公民科等の取得ができます。

算数・数学科

代数学、幾何学、解析学、統計学、コンピュータといった数学の内容に関する学習を行い、数学の理解を深めるとともに、数学教育に関する学習もあわせて行います。数学のゼミは、指導教員が各ゼミ生に専門書などの教材を与え、それを輪講形式で読み進めるといったのが一般的です。単に計算ができたというだけではなく、その式の幾何学的な意味は何か、背景にある本質的な原理は何か、などを指導教員がゼミ生に指摘し考えさせ、それと並行してプレゼン能力も高めていきます。そのような訓練を重ねていくことによって、いつの間にか物事を学ぶ正しい姿勢を身につけていき、結果的に数学的思考力や発想力、そして説明能力が育成されていきます。

理科

物理学・化学・生物学・地学の内容を学びながら、自然の事物や現象を取り扱う際の、授業計画、教材・教具の使用法、実験・観察の指導法、コンピュータの活用、児童・生徒の自然認識、科学史、評価方法など、理科をよりよく教えるための基本を身につけます。たとえば生物学研究室(動物分野)では、これまで、昆虫のアミノ酸嗜好性に関する研究や、ムツゴロウ皮膚の形態学的研究、フナのカンチン素運動に関する研究等幅広くおこなっています。地域の生物を活かした教材開発等も積極的に推進しています。理科のどの研究室でも「いかに科学するか」のノウハウを身につけることができます。

音楽科

音楽科では、音楽を「学校で伝え教える」意味について、音楽理論・音楽史・ソルフェージュの授業で基礎的な力を身につけながら、音楽科教育の理論と実践、ピアノ・声楽・作曲・指揮・伝統音楽などの実技演習を通じて、より深く研究していきます。卒業生の多くは、多様な視点と能力を備えた説得力のある教員として、小学校や中学校をはじめとする様々な教育現場で活躍しています。

- ・橋本研究室(作曲法・編曲法・伴奏法)
- ・板橋研究室(声楽・発声・歌唱法)
- ・今井研究室(指揮法・ソルフェージュ・器楽奏法)
- ・山田研究室(音楽教育)
- ・荒巻研究室(音楽教育)

技術科

ものづくりをイメージ制作と実物製作の2つから捉えて、この両方の基礎となる情報教育や技術教育について学びます。例えば、小野文恵先生の研究室(摩擦に関する研究(トライボロジー))では、特に潤滑油の高圧粘度特性や低温粘度特性を調べることを研究の主題としています。そのほかにも摩擦試験機で様々な潤滑油や材料の性能評価を行っており、これらの研究をもとに、技術教育への応用を考えていきます。

家庭科

「被服学」「食物学」「住居学」「家庭科教育学」について学びます。たとえば、住居学研究室では、これからの生活をより豊かなものにするために、私たちの生活の場である住居や住環境について多様な視点から考えます。卒業研究では住宅居住者へのアンケート・インタビュー調査、室内環境の測定・実験等の幅広い研究活動を行うことで、専門知識と技能を深めると共に家庭科の実践的な授業力を養います。

保健体育科

ゼミでは、児童生徒の心身の発達や健康を「守り育てる」観点より、学校体育、学校保健、生涯スポーツの授業方法等を含む各領域に亘る研究に取り組んでいます。学生と教員が共に、これらの教育活動のあり方や健康・体力の維持増進、学習と教育の効果等に寄与する理論と実践の融合を目指し学んでいきます。具体的には、教師をはじめとした専門職に幅広く生かすために、「アクティブキッズプロジェクト」や「中高齢者のための健康教室」、「地域スポーツクラブコーチ」等の社会貢献にも積極的に参加し人材養成をしています。

卒業研究紹介



草津 晃平 佐賀県立伊万里高等学校出身

小学校中学年の体育授業における剣道の可能性

「興味があることを調べてきなさい。」これが私たちのスタートでした。先行研究や専門用語などを深く深く調べていくと、私の「興味があること」を多くの人が研究しており、私自身の新規性、独自性、オリジナリティを出すことが一番苦労したことと言えます。いつしか自然と「興味のあること」から「研究すべきこと」へと変わり、仲間と協力して楽しみながら完成させました。ご指導いただいた先生方ありがとうございました。

卒業生の主な卒業論文テーマ

- インテリアの心理効果に関する知識と実践に関する研究
- 調理におけるおごだしの抗酸化効果に関する研究
- 小学校国語教科書の挿絵に関する研究
- 挿絵の機能と活用法を中心に
- 小学校におけるiPadを用いた授業開発の研究
- 食品の安全に関する指導について
- 「さがの体育」についての一考察
- 豊かな図形感覚を身につけさせる教材開発研究
- 社会科授業におけるコミュニケーションの研究
- -IRE連鎖からの脱却を求めて-
- 小学校音楽家における唱法に関する研究
- 図画工作科における造形遊びの実践的研究
- 外国語活動におけるICT絵本読み聞かせの有効性
- 初等理科教育における植物環境の利・活用にに関する研究
- 酸性温泉の流路における微生物群集の空間的变化
- ヒメダカとクロメダカの実験教材としての資質の比較考察
- 数学科におけるコンピュータを用いた教材作成
- 空間図形における概念形成を高める教材開発に関する研究
- 低温下での潤滑油の体積弾性係数の測定
- 潤滑油の高圧粘度係数と低温特性
- フランス共和国の移民受容
- ナチス政権下のドイツ国民の生活

教員紹介

言語・社会系グループ

- 近藤 則之 教授
漢文学
- 達富 洋二 教授
国語科教育学
- 谷口 高志 准教授
中国文学
- 竜田 徹 准教授
国語科教育学
- 都築 彰 教授
中世イングランド王国史
- 森 善宣 准教授
北東アジア国際関係
- 宇都宮明子 准教授
社会科教育学
- 藤永 豪 准教授
人文地理学
- 吉岡 剛彦 教授
法哲学
- 鬼嶋 淳 准教授
日本近現代史
- 後藤 正英 准教授
倫理学
- 早瀬 博範 教授
アメリカ文学
- 小野 浩司 教授
英語学
- 田中 彰一 教授
英語教育学
- 木原 誠 教授
ケルト・アイルランド文化学
- 林 裕子 准教授
英語教育学
- 中里 理子 教授
日本語学

理数系グループ

- 瀧川 真也 教授
数学教育学
- 川中子 正 教授
解析学
- 寺井 直樹 教授
代数学
- 庄田 敏宏 准教授
極小曲面論
- 大隅 秀晃 教授
素粒子・原子核物理学
- 宮脇 博巳 教授
植物分類学
- 世波 敏嗣 教授
理科教育学
- 岡島 俊哉 教授
有機化学
- 角縁 進 教授
火山岩石学
- 中村 聡 教授
理論物理学
- 嬉 正勝 准教授
動物生理学
- 高島 千鶴 准教授
地球生命科学
- 角 和博 教授
技術教育学
- 小野 文恵 教授
機械工学

実技系グループ

- 山田 潤次 教授
音楽教育学
- 橋本 正昭 教授
作曲
- 今井 治人 教授
指揮
- 板橋江利也 教授
声楽
- 荒巻 治美 准教授
音楽教育学
- 栗原 淳 教授
学校保健学
- 池上 寿伸 教授
運動学
- 坂元 康成 教授
運動学
- 井上 伸一 教授
バイオメカニクス
- 山津 幸司 准教授
スポーツ心理学
- 甲斐今日子 教授
被服学
- 中西 雪夫 教授
家庭科教育学
- 澤島 智明 教授
住居学
- 萱島 知子 准教授
食物学